横浜市立瀬ヶ崎小学校　学校便り
せがさきの風
大きな朝日さしのぼる　希望と愛の花が咲く
世界に窓を開け放つ　瀬ヶ崎小学校　横浜　瀬小
〒236-0037　横浜市金沢区六浦東三丁目２番１号
TEL 781-2446・2447　FAX 701-4892
ホームページ http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/segasaki/
メールアドレス y3segasa@edu.city.yokohama.jp

12月号
2017（平成29）年
11月 30日発行

「だれもが」「安心して」「豊かに」

学校長　梅田　比奈子

１２月１０日は、世界人権宣言が採択された「世界人権デー」、そして、１２月４日から１２月１０日までが「人権週間」です。今年度も、子どもとともに、様々な場面で「人権」ということを考えました。

私の心に残っている映画のひとつに「あん」という映画があります。今年、第 66 回神奈川文化賞を受賞した、樹木希林さん主役の映画です。

どら焼き屋の雇われ店長として働いている一人の男性。そこに、求人募集の貼り紙を見て、そこで働きたいと一人の高齢の女性がきます。彼女のつくるあんはとてもおいしく、お店はどんどん繁盛します。しかし、彼女は、ハンセン病の元患者でした。心ない噂が出、彼女は仕事に来られなくなります。

私は、この映画を見て、差別は言葉も暴力もなく、静かにやってくることもあるということを強く感じました。「人が人を傷つけてはいけない。」それは、子どもでも知っていることです。しかし、本当に心をえぐるような痛みを、知らないうちに人に与えてしまうことがあるのではないかと・・。映画の彼女は、しなやかで、真摯であたたかい女性です。彼女の店長に話した言葉や手紙の中から、その一部分を紹介したいと思います。

「あんを炊いているときのわたしはいつも、小豆の言葉に、耳をすましていました。それは、小豆が見てきた雨の日や晴れの日を、想像することです。どんな風に吹かれて小豆がここまでやってきたのか、旅の話を聞いてあげること。そう、聞くんです。」

「ねえ、店長さん。わたしたちはこの世を見るために、聞くために生まれてきた。だとすれば、何かになれなくてもわたしたちは、わたしたちには、生きる意味が、あるのよ。」

相手の心の声を聞くこと。人は皆、生きる意味があること。それを優しい言葉で語りかけてきます。
映画を見た後、一人ひとりがかけがえのない存在であることや相手の心の声に耳を傾けることの大切さを、もう一度、心の奥に刻み込みました。

横浜市では、「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できる学校やまちを目指して人権教育に取り組んでいます。そして、本校は、その人権教育のセンター校です。あの子は、安心できているかな？表面に見えてくる行動の背景につらさを抱えていないかな？友達の中で悩んでいないかな？人権週間に、もう一度自分を問い直し、一人ひとりを大切にした教育活動を今後も進めて生きたいと思います。そして、子ども自身が自分を大切に、それと同じように周りの人も大切にできるように、おかしいことに気づき言葉にできるようにていねいに取り組んでいきたいと改めて思いました。

※映画「あん」より、徳江の言葉と手紙の一部を覚えている範囲で引用しました。